

海賊対処行動派遣部隊がソマリア沖・アデン湾に向け出航 ～ 派遣海賊対処行動水上部隊（第53次隊） 出国行事の模様 ～

ソマリア沖・アデン湾に赴く第53次派遣海賊対処行動水上部隊の出国行事が1月28日(水)に開催され、護衛艦「ゆうだち」が青森県むつ市から出港した。

堤敏雄艦長が指揮を執る「ゆうだち」には、第53次ソマリア周辺海域派遣捜査隊を編成する久木田修身隊長以下海上保安官8名を含め、約200名が乗り組み、現在活動中の第52次隊の護衛艦「おおなみ」と交代する。なお、同艦は中東地域における情報収集活動も兼務する。

式典では伍賀祥裕護衛艦隊司令官が、「国際情勢は混迷の度合いを更に増しています。海賊行為等の発生は、昨今のソマリア情勢の影響を受けつつ、やや増加しています。流動的で予断を許さない中東情勢の中、海賊対処行動、情報取集活動はわが国の海上交通の安全確保に直結し、その成果は日本船主協会はもとより内外から高い評価と多くの期待が寄せられています。任務の完遂、無事の帰国、そして元気な姿で再会することを祈念します。」と大町克士自衛艦隊司令官の訓辞を代読した。

また、彼末浩明海上保安監が、隊員に対して「国際海上物流の要衝であるソマリア・アデン湾におけるわが国の海賊対処行動は長きにわたり、日本のみならずあらゆる国籍の船舶および乗組員の安全を確保してきた。この取り組みは、国内外から高い評価を受けている。ソマリア沖・アデン湾では海賊等事案が発生している上、中東情勢も不安定な中、これらの任務は緊張感を強いられ想像を絶する苦労があると思う。しかし、優れた能力と旺盛な士気を以って、最高のパフォーマンスを発揮してくれるものと期待する。」と挨拶した。

最後に堤艦長が、「派遣部隊、自覚を持って任務に邁進します。護衛艦「ゆうだち」出港します。」と報告し、乗組員一同が乗艦した。

NSユナイテッド海運の高見隆昌執行役員は当協会を代表して、「日本商船の安全確保を宜しくお願いします。お気をつけて！」と任務に赴く乗員に想いを伝えた。

当協会からは高見執行役員のほか、平尾常務理事、飯野海運 落岩海務部長、商船三井 米田海上安全部長、日本郵船 進藤海務グループ長が、国際船員労務協会から東平事務局次長、全日本海員組合から齋藤中央執行委員、大山外航部部長らが参加した。

参加者一同は、連日降雪であったが、久しぶりに降り注いだ陽光の下、大湊の岸壁から日本を離れ、海賊対処行動に赴く「ゆうだち」の安全航海と乗員の無事を祈りつつ、見送った。

出国行事



訓辞を代読する伍賀司令官



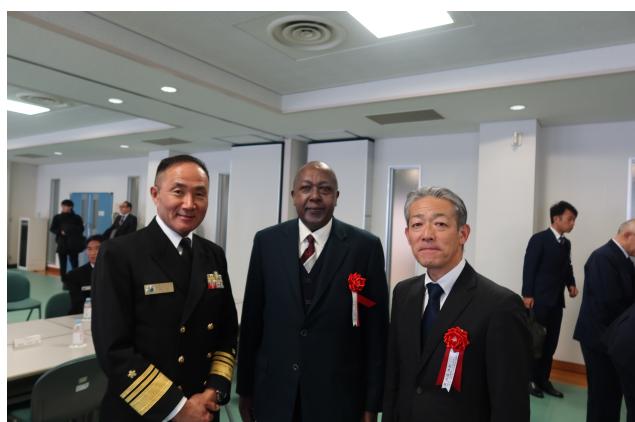
挨拶する彼末海上保安監



出国報告を行う堤艦長



挨拶する高見執行役員



稻田地区総監, ドゥアレジブチ大使, 高見執行役員



整列した「ゆうだち」乗組員



「帽振れ！」を合図に乗組員が帽子を振りながら出港する「ゆうだち」



出港を見送った参加者